

未来へつなぐ「まち・ひと・建築」

～インクルーシブな社会を目指して～

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会が東京田町の日本建築学会建築会館ホールで7月14・15日に開催されました。山口県からは4名の女性建築士が参加しました。



全国女性委員長（部会長）会議

女性部長 神徳香子

新会長の古谷誠章氏から、連合会にある3つの委員会のうち青年と女性は「属性」によるもので故にテーマは自由、女性委員会には女性ならではの視点をもって社会全体に問題提起を、と投げかけられ、



“女性ならではの”と少し引っ掛かりを感じた私。幾度となく言われ受け流してきた言葉ではあるけれど、突き詰めれば「私たちならではの」になるのかな。皆様はどう考えますか？

「女性ならではの」とは？

と少し引っ掛かりを感じた私。幾度となく言われ受け流してきた言葉ではあるけれど、突き詰めれば「私たちならではの」になるのかな。皆様はどう考えますか？

基調講演1・2

山口支部 金子敦子

第一部は TOTO(株) 真島 香氏

「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」

をテーマに、社会生活・社会参加するために、安心して外出できる環境が重要とし、パブリックトイレのレイアウト提案やコンテンツの制作をはじめ、多様な人の水廻りの利用実態やニーズを調査し、一人でも多くの人使いやすいトイレのあり方を提案された。印象に残ったのは私自身が経験のない、ストーマ装具のパウチの脱着の動作を映像で紹介され、脱着に40分を要する事も学んだ。

パブリックトイレは多様な人々、多様な行為、多様なニーズへの配慮が必要だと改めて学んだ。

第二部は (株)日建設計 畑島 楓氏

個性を活かして共生する

「インクルーシブな社会を目指して～トイレから

誰もが使いやすい建築を考える～」と題し、セクシャルマイノリティの当事者として Diversity & Inclusion に関する講演や発信活動をされている。講師紹介のこの写真を拝見した時、元気のいい女子だな！と思ったがお逢いしてみると素敵なお女性ではないか！チョコレート・ドーナツやミッドナイトスワンしか知らない、金子の経験値、ジェンダーバイアスを笑った！氏は小学生の時、先生から「休み時間は男子は男同士で遊びなさい」と、しつこく言われるのが嫌で自己防衛のため絵を描くようになり、絵を描くのが好きな男子として先生に認められたそうだ。そして国語の時間に「スイミー」という物語と出会う。赤い魚の中に一匹だけ黒い魚のスイミー。お前だけ違う色と、仲間外れにされながらも大きな魚が襲ってきた時、



畑島 楓
株式会社日建設計

みんなの目になって仲間を助ける。というあらすじ。その後、彼は絵を描くことでみんなの目になろうと決めたそうだ。多様性の共存が社会の強みだ・・・形の崩れない「出汁の利いたおでん」のような社会を造りたいと言う。そして彼女は建築家として建築で人類に貢献する！と、いう事を目標としている。

デンマークでの体験。トイレの入り口は一つ。ドアを開けると部屋の中には個室がズラリ。男も女も躊躇なくそれぞれ開いている個室に入っていく。ジェンダー平等のデンマークとは・・・既にトイレにも普及していた。

二つのトイレ談義を通して、もっと目を開いて前を向いて歩けよ！と 優しくガツンとやられてしまいました！人生は刺激的！



みんなの目になって仲間を助ける。というあらすじ。その後、彼は絵を描くことでみんなの目になろうと決めたそうだ。多様性の共存が社会の強みだ・・・形の崩れない「出汁の利いたおでん」のような社会を造りたいと言う。そして彼女は建築家として建築で人類に貢献する！と、いう事を目標としている。

デンマークでの体験。トイレの入り口は一つ。ドアを開けると部屋の中には個室がズラリ。男も女も躊躇なくそれぞれ開いている個室に入っていく。ジェンダー平等のデンマークとは・・・既にトイレにも普及していた。

二つのトイレ談義を通して、もっと目を開いて前を向いて歩けよ！と 優しくガツンとやられてしまいました！人生は刺激的！

二つのトイレ談義を通して、もっと目を開いて前を向いて歩けよ！と 優しくガツンとやられてしまいました！人生は刺激的！

B分科会

インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」

山口支部 神徳香子

家具の転倒防止対策。地震報道に触れる度対策しないと！と思うものの「喉元過ぎれば熱さを忘れる」…そんな中ふと目にとまった「JOL防災」。インテリアと防災の両立？とても気になり参加しました。講師は建築士でインテリアコーディネーターの柏原氏氏。

「JOL=Joy of Living」暮らしを楽しむ、整える日々の行動を防災につなげる、という考え方で。建築の平面計画と同じように、家具のレイアウトでも防災減災の視点を取り入れ動線やゾーニングを考えること、例えば避難ルートの確保や集中収納などです。レイアウトで対応できない場合に家具の固定対策をする、「まずは安全なゾーニング」というお話に深く納得しました。間取りと家具のレイアウトが合っていないケースもあるとのこと。レイアウトを見直し、物量を見直し、家具固定のナイスな金物や方法を探し、みんなで情報共有。その積み重ねが「防災を優先すると残念なインテリアになる」という思い込みを払拭するためには必要なのかもしれません。



F分科会

女性部会情報紙「フフ」と女性部会の今後について

光支部 水谷糸絵

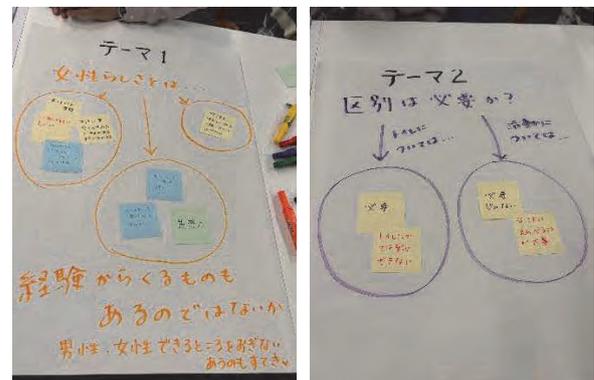
今回、募集要項の分科会概要欄に、「ジェンダーフリー、多様性社会における女性部会としての存在意義はどこにあるのだろうか？」という内容の文章を見つけ、F分科会に決めました。

ワークショップのテーマは「女性らしさとはなにか」「区別は必要か」のふたつです。

周りの女性に感じることで、自分がよく言われる

ことを話してみました。私たちのグループには男性と男子中学生がいたので、まず男性から見た女性らしさを聞いてみました。最初に「女性は宝」だと言われてびっくり…そして、「自分よりも周りをよく見ていてよく気が付く」そうです。男子中学生からは、「女子も一緒に遊ぶし気にしたことがない」そうで、授業でも、男子、女子、という区別はあまりないようです。女性からは「コミュニケーションの取り方が上手。」「共感力、包容力がある」などの意見が出ましたが、結論としては、「経験や性格で変わってくることで、女性だから、男性だから、ということはないのではないかと出来ないところをお互い補っていければ素敵だ」という結論に…。周りには言われるけど、あまり「女性らしさ」「女性だから」を気にしている人がいないグループでもありました。

区別は必要か？というテーマでは、前日のジェンダーレストイレの話から安心できないので区別が必要。活動については区別するのではなく選べるのが大事ではないかという結論に。



久しぶりのリアル全建女で勉強になりましたし、いろいろな意見が聞けて良い経験になりました。

おわりに

去年の全国大会の女性委員会セッション「思いっきりバージョンアップ！～女性も青年も参加したい『魅力ある建築士会』とは～」の資料や動画が連合会ホームページで公開されています。ぜひチェックしてみてください。

来年度の全建女は7月山形県で開催予定です。一緒に参加してみませんか？

編集/山口支部 神徳香子